

第3章 現状と第1期総合戦略の振り返りから見えてきた課題

1. 第1期総合戦略の振り返り

平成27(2015)年12月に策定した「八幡平市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、「八幡平市の特性を活かした、生きがいを感じる働く場の創造」、「八幡平市の豊かな自然や絆を活かし、新たな人が流入する流れを創る」、「八幡平市の地で緑を結び、次世代の成長と笑顔を育む」「各地域の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高める」の4つの基本目標と17のプロジェクトにより、人口減少対策を総合的に進めてきました。

平成27年から30年までの4カ年の人口動態を見ると人口減少は止まらず、平成26年度末と平成30年度末の比較では△1,849人となっています。その中で社会増減は平成26年の△166人に対し平成30年は△74人と大きく改善していますが、一時的な現象とも考えられることから引き続き注視が必要です。

基本目標における数値目標の平成30年度までの達成状況を見ると、12の数値目標のうち達成は2つ、基準値を上回ったのは1つであり、ほとんどが基準値を下回っています。

一方、17のプロジェクトの重要業績評価指標(KPI)では、平成30年度には8の項目で目標を達成しています。特に、起業件数と新規就農者数については、堅調に実績を伸ばしています。また、10の項目で基準値を上回っており、PDCAサイクルでより効果を高める工夫が必要です。一方で、実施できなかった施策や動きがない施策については、抜本的に取り組みを見直す必要があります。

さらに、プロジェクトの内容とKPIに因果関係が薄く、効果検証として有効ではないものがあり、プロジェクトと主要施策の整理とKPIの見直しが必要です。

基本目標	指標項目	目標値	単位	基準値	27年度	28年度	29年度	30年度	評価27	評価28	評価29	評価30
基本目標ごとのプロジェクト	指標項目	目標値	単位	基準値	27年度	28年度	29年度	30年度	評価27	評価28	評価29	評価30
1 八幡平市の特性を活かした、生きがいを感じる働く場の創造	製造業製造品出荷額	3,000	千円	2,735	2,828	3,438	3,256	3,150	B	A	A	A
	農業純生産額(H26から農業総生産額)	6,295	百万円	6,121	公表無	公表無	公表無	公表無	NA	NA	NA	NA
	法人市民税額	210	百万円	194	190	204	202	191	C	B	B	C
① 農と輝のブランド強化プロジェクト	企業誘致による企業立地数	31	社	28	27	27	27	27	C	C	C	C
	企業立地による雇用者数	1,150	人	1,098	1,092	1,090	1,101	1,110	C	C	B	B
	起業件数	3	件	—	1	1	3	5	B	B	A	A
	新規就農者数	累計35	人	—	35	39	42	44	A	A	A	A
	りんどう(切花)販売額	1,300	百万円	1,067	1,150	1,102	1,048	1,144	B	B	C	B
	ほうれんそう販売額	500	百万円	424	448	441	369	337	B	B	C	C
	Uターン相談件数	100	件	40	48	41	66	63	B	B	B	B
② 大学連携による産業・雇用・人材強化プロジェクト	大学連携による市内企業との共同研究件数	3	件	0	0	2	1	3	B	B	B	A
	平館高等学校の生徒数	249	人	249	272	264	249	217	A	A	A	C
	平館高等学校生徒県内就職率	90	%	89.5	89.1	90.9	92.7	80.00	B	A	A	C
③ 地熱エネルギーを活かした地域活性化プロジェクト	プロジェクトによる雇用の創出	累計17	人	—	0	0	0	0	B	B	B	C
	地熱インフラ利用事業件数	722	施設	718	741	715	709	707	A	C	C	C
④ 農と輝の職場アピールプロジェクト	学習プログラムの企画・実施件数	2	件	—	2	0	1	1	A	B	B	B
	観光入込客数	2,500	千人回	2,354	1,756	1,789	1,814	1,944	C	C	C	C
2 八幡平市の豊かな自然や絆を活かし、新たな人が流入する流れを創る	観光等宿泊者数	460	千人回	440	489	450	503	533	A	B	A	A
	転入率(人口千人当たり)	24.00	人	20.57	19.20	19.72	19.83	21.23	C	C	C	B
⑤ 健康リゾート強化プロジェクト	健康食等の滞在型観光パッケージ事業の企画・実施件数	2	件	—	0	0	0	1	C	C	C	B
⑥ 広域スポーツイベント・合宿の拠点づくりプロジェクト	スポーツ関係宿泊者数	33,000	人	29,812	26,191	41,670	18,283	16,325	C	A	C	C
	スポーツ関係大会開催数	10	回	6	9	9	11	12	A	A	A	A
⑦ 観光客もてなし体制強化プロジェクト	外国人観光客数	32,000	人回	22,364	28,448	34,870	71,166	81,366	B	A	A	A
	市内インターチェンジ利用台数	1,900	千台	1,774	1,743	1,714	1,781	1,754	C	C	B	C
⑧ 観光マネジメント体制強化(日本版DMO)による教育旅行活性化	教育旅行客数	30,000	人	28,511	28,562	20,317	20,630	21,213	B	C	C	C
	教育旅行受入校数	280	校	263	254	261	280	182	C	C	A	C
⑨ 生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想プロジェクト	移住者数	累計 60	人	—	2	10	10	10	B	B	B	C
	お試し居住参加者数	累計 120	人	—	46	295	334	448	B	A	A	A
	雇用創出数	累計 8	人	—	5	5	5	5	B	B	B	B
3 八幡平市の地で緑を結び、次世代の成長と笑顔を育む	出生数	146	人	131	142	145	124	121	B	B	C	C
	合計特殊出生率	1.46	—	1.31	1.40	1.41	1.40	未	B	B	B	NA
⑩ 若者等の定住促進プロジェクト	市定住交流サイトアクセス数	3,000	件	2,360	3,044	1,975	1,971	2,777	A	C	C	B
	市外からの通勤者の転入者数	30	人	—	—	—	—	—	C	C	C	C
⑪ 子育て支援サポートプロジェクト	保育所持機児童数	6	人	0	25	22	40	29	C	C	C	C
	出会い、お見合い集団イベント参加者数	120	人	90	99	51	71	61	B	C	C	C
⑫ 出会い・縁づくりサポートプロジェクト	イベントを通じた婚姻組数	3	組	1	1	1	0	1	B	B	C	B
	福祉ボランティア団体登録会員数	600	人	483	481	504	481	453	C	B	C	C
4 各地域の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高める	NPO法人	13	団体	11	11	10	10	10	B	C	C	C
	コミュニティバス利用者数	52	千人	50	48.8	48.5	45.2	42	C	C	C	C
	JR花輪線市内有人駅1日当たり乗車人員	339	人	339	329	298	300	315	C	C	C	C
	JR花輪線大更駅1日当たり乗車人員	275	人	275	269	247	250	267	C	C	C	C
⑬ 地域拠点(小さな拠点)等活性化プロジェクト	広域生活路線バス(県北バス)利用者数	350	千人	348	342	336	307	323	C	C	C	C
	再生可能エネルギー発電量	48,368	kw	41,270	41,270	41,308	41,308	48,856	B	B	B	A
⑭ 八幡平市全国プロモーションプロジェクト	市ホームページビュー数	135	万件	134	120	118	110	109	C	C	C	C
	動画視聴回数	35	万回	25	32	100	122	201	B	A	A	A
⑮ 協働のまちづくり活性化プロジェクト	地域計画策定数	12	地域	4	11	11	11	11	B	B	B	B
	コミュニティセンター利用者数	146	千人	121	118	106	101	109	C	C	C	C
⑯ 盛岡広域連携強化プロジェクト	広域連携事業数	61	事業	32	32	47	50	50	B	B	B	B

2. 人口問題の改善に向けてのまちづくりの課題

(1) 若年層のまちへの誇り愛着の醸成

八幡平市は、2019年10月に無作為に抽出した市民3,000名を対象に郵送アンケート調査を実施しました（以下、「市民アンケート調査」）。市民アンケート調査では、八幡平市への「愛着」「大切に思う」「自分に合っている」は、30代に低い傾向がみられました〈グラフ①〉。

まちへの愛着や誇りを高めることは、Uターン増加に繋がると言われていることから、就学、就職でのまちからの離脱を一時的なものに留め、最終的なまちへの帰着を促すために、中学生や高校生の段階での郷土教育やまちへの主体的な参画の機会作りが必要となっていきます。

〈グラフ①〉まちへの誇り、愛着、子育て意向

		(加重平均値)				
		このまちに愛着を感じますか	このまちを大切に思っていますか	このまちは自分に合っていますか	このまちで子どもを育てたいと思いますか	自分の子どもにもこのまちに住み続けてほしいと思いますか
20-40代全体		39.6	43.4	27.3	17.9	-4.9
世帯別 (末子年齢)	未就学以下	46.3	52.5	30.3	33.3	-4.6
	小学生	46.5	46.5	35.1	28.9	-9.6
	中学生以上	39.2	42.3	28.5	23.8	1.5
	子どもなし	36.4	39.8	25.1	8.4	-5.2
エリア別	西根地区	38.9	43.0	28.4	19.5	-3.8
	松尾地区	45.1	49.6	33.5	25.2	2.3
	安代地区	37.5	39.1	18.2	5.2	-16.9
性別	男性	41.1	43.1	29.4	20.2	0.0
	女性	38.3	43.7	25.3	15.8	-9.5
年代別	20代	41.2	43.9	34.1	17.9	-2.5
	30代	34.2	42.3	17.0	11.5	-13.5
	40代	43.8	44.0	31.3	25.0	2.3
	50代	42.9	49.4	38.0	23.3	3.6
	60代	49.7	52.1	42.5	22.3	18.4
	70代	56.2	67.7	51.5	31.6	29.8

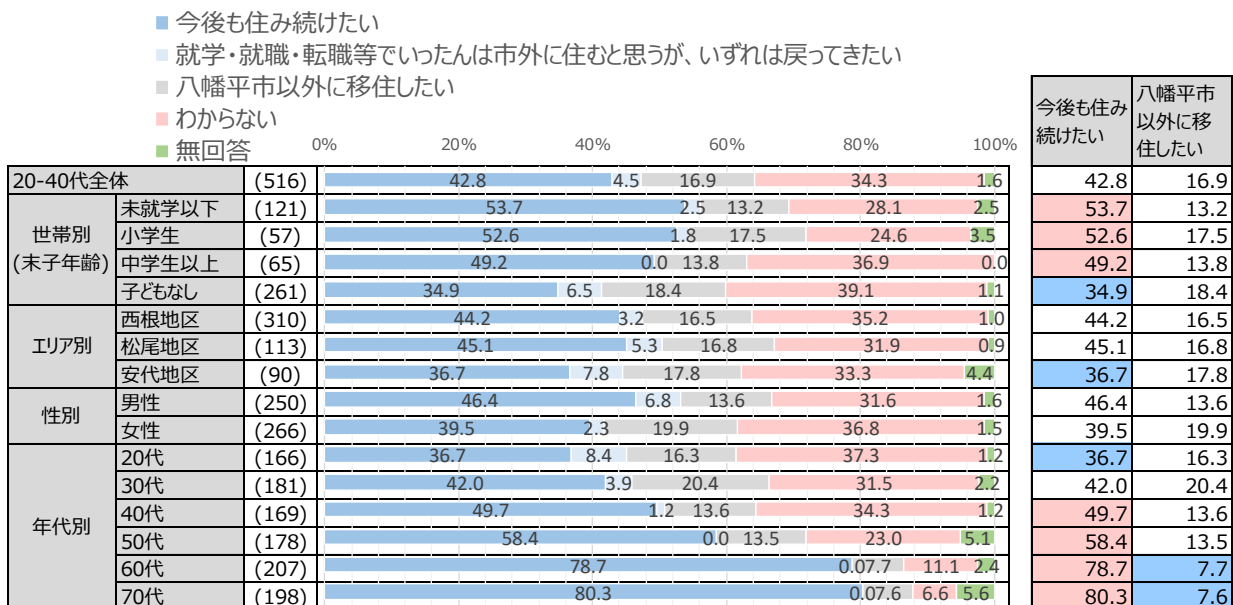
※加重平均値の算出方法：各項目の選択肢は「そう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、そう思わない」の5段階尺度。それぞれ「100、50、0、-50、-100」の加重値で平均値を算出している。

エリアや個人属性別による定住意向においても、やはり20-30代の若年層ほど定住意向が低い結果になりました。〈グラフ②〉

また、世帯別では、子どもがいない世帯に比べて子どもがいる世帯の定住意向が高いため、結婚、出産、子育てしやすい環境づくりが必要です。

さらに、エリア別では若干のばらつきが見られ、市全体での包括的な対応だけでなく、エリア特性を考慮したサポート体制が必要です。

〈グラフ②〉八幡平市定住意向と八幡平市外への移住意向



数表の色付け：20-40代全体と比べて ■:5pt.以上スコアが高い ■:5pt.以上スコアが低い

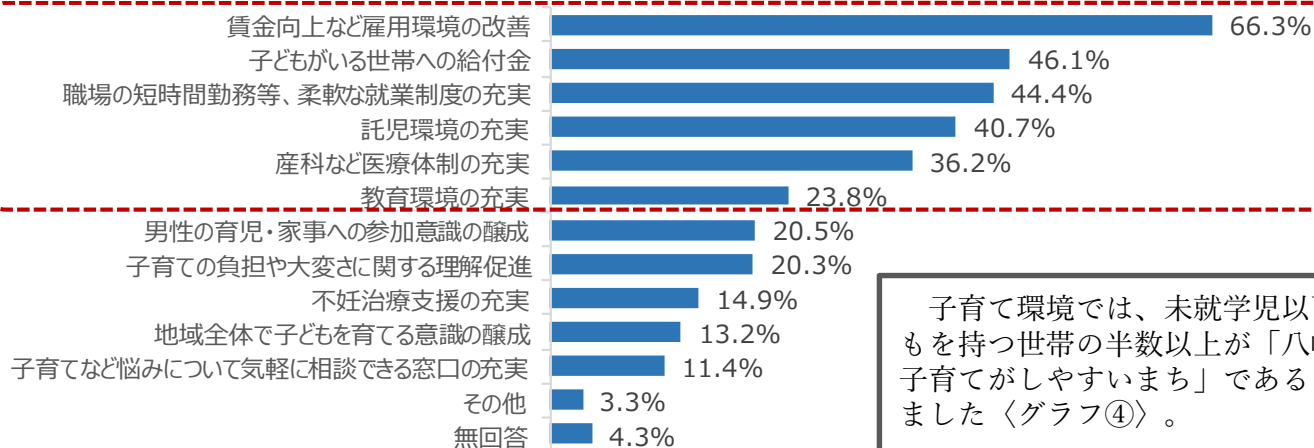
(2) 出生率の向上につながる環境づくり

市民アンケート調査では、八幡平市民20-40代（未既婚や、現在の子どもの有無を問わない）の“現在の子ども数”は1.48人、“予定している子ども数”は1.61人、“理想の子ども数”は2.50人という結果でした。子どもを持つ意向はあるものの、理想に届いていない現状があります。

理想の子ども数を持つために求める仕組みでは、「賃金向上など雇用環境の改善（66.3%）」が最も高く、次いで「子どもがいる世帯への給付金（46.1%）」「柔軟な就業制度の充実（44.4%）」「託児環境の充実（40.7%）」「産科など医療体制の充実（36.2%）」が続きます（グラフ③）。安心して生み育てるために、働く環境や医療環境に係る支援充実の優先度が高いといえます。

n=516（八幡平市民20-40代）

〈グラフ③〉理想の子ども数を持つために求める取組み



〈グラフ④〉八幡平市の子育て環境について

		n	八幡平市は子育てがしやすい市である (%)	子育ての悩みや不安を相談できる人がいる (%)	八幡平市の子どもの教育環境（小中学校）は整っている (%)
20-40代全体		(516)	38.4	53.3	54.8
世帯別 (末子年齢)	未就学以下	(121)	52.9	89.3	57.0
	小学生	(57)	42.1	82.5	66.7
	中学生以上	(65)	43.1	69.2	64.6
	子どもなし	(261)	31.0	28.4	50.2
エリア別	西根地区	(310)	40.3	56.8	53.5
	松尾地区	(113)	41.6	52.2	61.1
	安代地区	(90)	28.9	43.3	53.3
性別	男性	(250)	38.4	41.2	57.6
	女性	(266)	38.3	64.7	52.3
年代別	20代	(166)	38.6	44.0	60.2
	30代	(181)	36.5	58.6	49.2
	40代	(169)	40.2	56.8	55.6

数表の色付け：20-40代全体と比べて

■:5pt.以上スコアが高い ■:5pt.以上スコアが低い

子育て環境では、未就学児以下の子どもを持つ世帯の半数以上が「八幡平市は子育てがしやすいまち」と回答しました（グラフ④）。

市民アンケート調査後に、子育て全般に関する意識や実態を深堀りするために八幡平市在住の未就学児の母親6名を対象にインタビュー調査を実施しました（以下、母親インタビュー調査）。

支援制度の充実や、少子であるため個々の子どもを手厚く見守れる教育環境が、八幡平市が子育てしやすいまちであるという認識に繋がっていることがわかりました。子どもを設ける前の市民にも、子育てしやすいまちであることのアピールは必要です。

良さがある一方で、子どもが遊ぶ環境や、小学生以降の学ぶ環境のほか、母親同士が集まれる場所がない、不妊や子育ての悩みを言える人がいないというコミュニティ環境について不安がありました。

これらの不安は市民アンケート調査でも共通して声が上がっており、環境を整えていくことが求められています。

【市民アンケート調査、母親インタビュー調査にみられる子育てに関する主要な不安・不満（抜粋）】

- ・働く環境：人手不足で子育ての都合で仕事を休みにくい、育児休暇や有給がとりにくい
- ・医療環境：産婦人科がなく市内で出産できない、小児科がなく市外に行かなくてはならない
- ・遊ぶ環境：雨や雪のとき子どもを遊ばせる場所がない、公園に行っても子どもがいない
- ・学ぶ環境：1クラスの人数が少なくスポーツができない、競争心が育たない、市外に通学するので交通費が負担
- ・コミュニティ環境：母親同士が集まれる場所がない、不妊や子育ての悩みを言える人がいない

3. 産業問題の改善に向けてのまちづくりの課題

(1) 地元企業の採用活動への行政支援

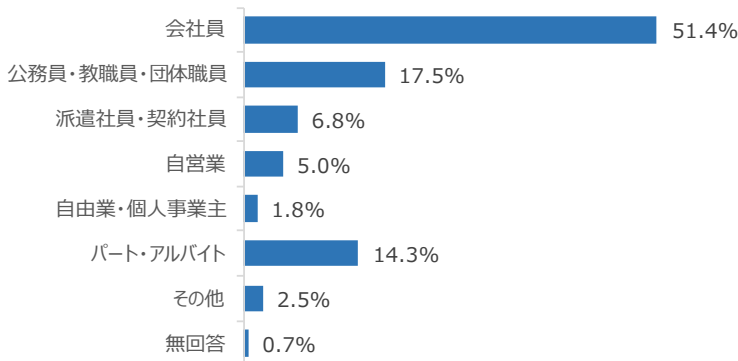
市民アンケート調査では、子育て世代である20-40代の過半数が「会社員」であり〈グラフ⑤〉、6割強が「八幡平市内」で働いていました〈グラフ⑥〉。雇用環境の改善は、八幡平市内の企業と一緒に取り組むことが重要です。

また、2019年11月に市内の企業を対象にアンケート調査（21社が回答）及びヒアリング調査を実施したところ（以下、企業アンケート調査）、回答企業の7割が前年比で令和元年度の賃金を引き上げており〈グラフ⑦〉、今後正社員を採用する意向もありました〈グラフ⑧〉。しかしながら、多くの企業で求める人材を獲得できていません〈グラフ⑨〉。また今後、推進が必要となるであろう、都市型人材の活用については、現状では必要性を感じられていませんでした〈グラフ⑩〉。

現状、地方からの人材流出がすぐに収束することが難しいことを考慮すると、今後、都市型副業人材¹⁰⁾やフリーランサー¹¹⁾の活用など、都市圏（盛岡等の地域中核都市含む）人材の多様な活用の推進は、まちとして進めていく必要があります、そのためのマッチングや相互理解に関する行政支援は必須となってくると思われます。

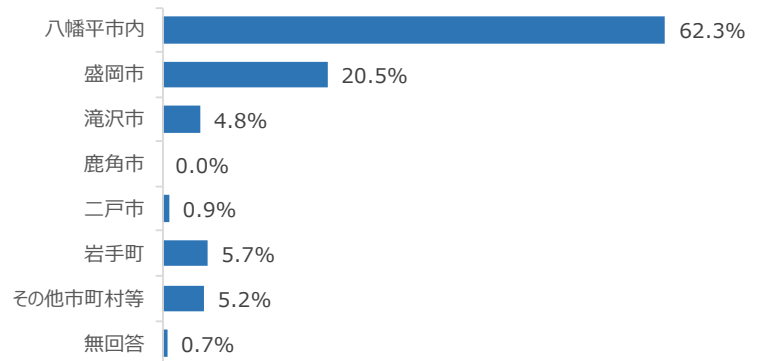
〈グラフ⑤〉 就業状況

n=516（八幡平市民20-40代・有職者）



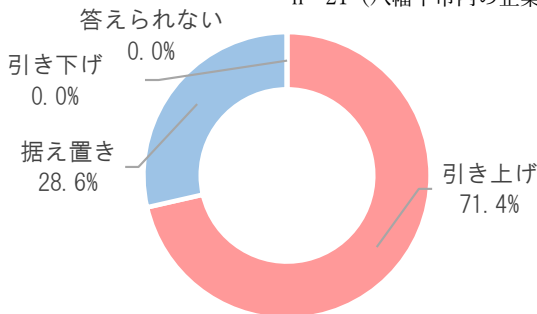
〈グラフ⑥〉 就業場所

n=440（八幡平市民20-40代・会社員）



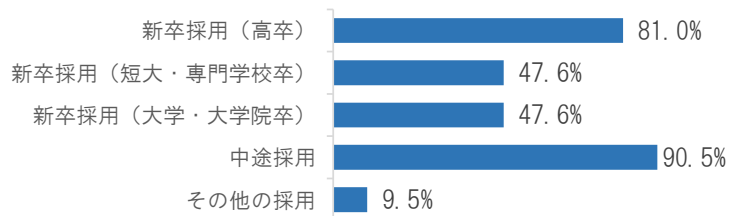
〈グラフ⑦〉 前年度と比較した賃金

n=21（八幡平市内の企業）



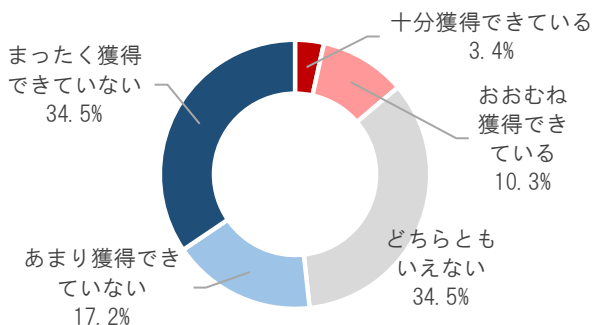
〈グラフ⑧〉 今後、正社員として採用する可能性があるもの

n=21（八幡平市内の企業）



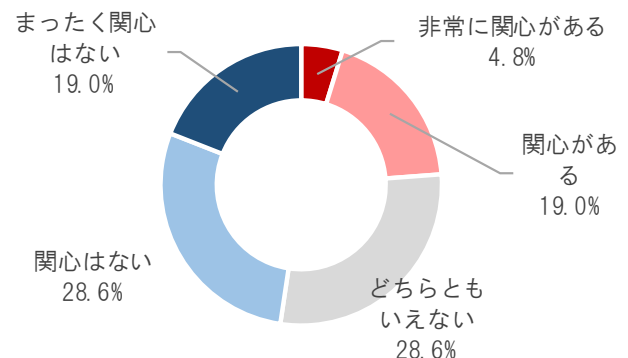
〈グラフ⑨〉 採用したい人材の獲得状況

n=21（八幡平市内の企業）



〈グラフ⑩〉 都市部からの人材の受け入れについて

n=21（八幡平市内の企業）



10) 都市型副業人材；都市部の企業に勤めながら、副業として地方企業に関わる人材

11) フリーランサー；特定の企業や団体、組織に専従しておらず、自らの技能を提供することにより社会的に独立した個人事業主もしくは個人企業法人として業務を遂行する人

(2) 観光交流人口や関係人口の増加につながる魅力の強化

観光交流人口の拡大については、宿泊型・回遊（滞留）型や通年型・リピート型観光客の増大を図るとともに、外国人旅行客や教育観光等の広域的な集客力の強化を図っていく必要があります。

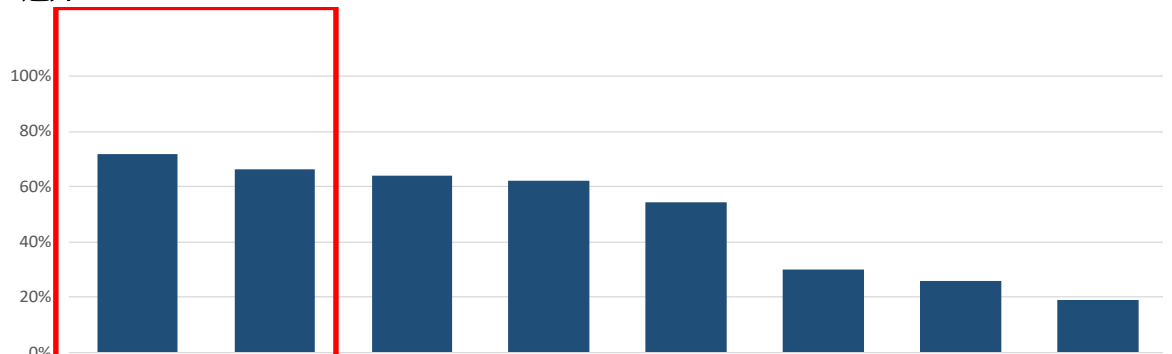
また、一時居住・季節居住や二地域居住と短期滞在や長期滞在を通じて、八幡平市の魅力と地域との関わりを体験してもらい、関係人口やU I ターンにつながる取り組みが必要です。

市民アンケートを見ても、八幡平市のイメージとして観光や自然景観を上げている人が多いことが伺えました。産業においても宿泊業などに従事している人も多くおります。

また、企業ヒアリング等から、農場キャンプやの馬を活用したホーストレッキング事業、さらにバックカントリーなど、既存のレジャーだけではない特色のあるレジャーや観光体験が創出されてきています。

今後は、画一的な観光ではなく、八幡平市ならではの独自性の高い観光のアピールなども積極的に推進していくことが重要となってきます。

〈グラフ⑪〉 八幡平市の魅力



n		温泉施設	自然景観・体験 (十和田八幡平国立公園、安比高原、七時雨など)	特産品 (八幡平牛、杜仲茶、ポーク、生乳など八幡平市で産出されたもの)	レジャー (ウインタースポーツ、登山など)	名産品 (りんどう、ほうれんそうなど)	エネルギー資源 (地熱発電など)	伝統工芸 (安比塗など)	文化・伝統芸能 (平笠裸参り、浅沢神楽など)
20-40代全体	(516)	71.9	66.1	63.8	62.0	54.5	30.0	25.8	19.2
子育て別	未就学以下 (121)	70.2	66.9	67.8	66.9	54.5	30.6	33.9	19.0
	小学生 (57)	78.9	68.4	61.4	78.9	45.6	22.8	24.6	12.3
	中学生以上 (65)	81.5	69.2	66.2	69.2	58.5	23.1	20.0	15.4
	子どもなし (261)	67.8	64.8	62.1	54.8	55.2	32.6	24.1	22.2
エリア別	西根地区 (310)	72.9	68.1	65.8	61.3	53.5	29.4	25.2	19.7
	松尾地区 (113)	74.3	61.9	71.7	64.6	48.7	38.9	23.9	20.4
	安代地区 (90)	65.6	64.4	45.6	61.1	64.4	20.0	30.0	15.6
性別	男性 (250)	72.4	62.8	62.8	60.8	53.2	33.6	21.6	18.0
	女性 (266)	71.4	69.2	64.7	63.2	55.6	26.7	29.7	20.3
年代別	20代 (166)	72.9	64.5	63.9	60.2	59.6	28.9	30.7	20.5
	30代 (181)	65.7	65.2	64.1	59.1	53.0	28.7	24.3	18.2
	40代 (169)	77.5	68.6	63.3	66.9	50.9	32.5	22.5	18.9
参考	50代 (178)	66.9	69.1	61.8	57.9	60.1	43.3	31.5	22.5
	60代 (207)	62.3	58.0	55.1	39.6	64.3	43.5	32.9	22.2
	70代 (198)	54.0	56.6	52.5	25.8	65.7	38.9	26.3	25.8

4. 持続可能なまちづくりの課題

(1) 多様な暮らし方、働き方を受容する持続可能なまちづくり

フリーランサーや多拠点居住者¹²⁾が働きやすい、暮らしやすいまちづくりから、新たな関係人口を創出し、一般的な自然増減や社会増減に捉われない持続可能なまちづくりを目指すとともに、地元企業と新しい人材のマッチングを推し進め、新たなしごとを創出する仕組みが必要です。

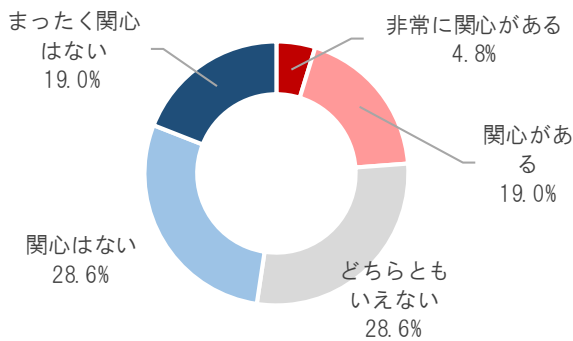
しかし、再掲調査にもあるように、まだ地元企業側に多様な人材獲得の受容が見受けられず、既に出てきている人材の活動の可視化など、相互理解促進が必要となっています。

また、移住者のヒアリング調査では、移住前から東北地方への興味や本市への観光経験、親族の地縁があるなど、何らかの関わりをもっていることがあることが分かりました。

本市においては、交流人口の拡大が関係人口創出を促す可能性も高く、両施策を連動させることが重要であると思われま

〈グラフ再掲〉都市部からの人材の受け入れについて

n=21 (八幡平市内の企業)



(2) 地域活力の維持増進や健康増進に留意したまちづくり

市を構成する各地域の活力の維持・増進に留意した持続性のあるまちづくりが重要であり、各地域の拠点施設等への機能集積による、地域の安心を支える体制や交通ネットワークの維持・増進等を検討していくことが必要です。

また、老年人口の増加が進む中であって、高齢者の健康寿命の増大につながる健康増進や生きがい対策に留意したまちづくりも大切です。

(3) 広域連携や官民連携、プロモーションの強化等による効果的なまちづくり

総合戦略において、人口問題の改善や施策を効果的に展開していくためには、地元（市民・企業・各種団体等）や大学・研究機関等も含めた幅広い官民連携や盛岡広域圏で連携した共通課題への対策など、関係者が協働で取り組んでいくことが重要です。

また、全国的な人口減少に伴い、都市間競争が厳しさを増している中で、本市の競争力を高めていくために、まちの魅力や強みを積極的にPRしていくことが必要です。

12)多拠点居住者；一つの家にとらわれない居住形態をする者

5. 問題の改善に向けて活かすべき本市の特性

本市は、以下のように豊かな自然を背景として、美しくやすらぎある環境、特色ある農業、豊富な観光資源等を有しています。

本総合戦略においては、まちの魅力・強みを構成している資源を最大限に活かしていきます。

(1) 豊かな自然

- ①豊かな自然（岩手山・八幡平・安比高原などの恵まれた自然環境）
 - ・日本百名山の岩手山・八幡平、新日本百名山の七時雨山
 - ・ブナの二次林、焼走り熔岩流（国の天然記念物）、松川・松川溪流
- ②きれいな水（名水百選、岩手山の伏流水が湧き出した金沢清水、長者屋敷清水）
- ③美しい景観、四季折々の景観美

(2) 特色ある農林業資源

- ①日本一の品質を誇るりんどう（国際ブランド化、平成27年度農林水産祭園芸部門天皇杯受賞）並びに雨よけほうれんそう（昭和63年度農林水産祭園芸部門天皇杯受賞）
- ②八幡平牛、杜仲茶ポーク、生乳
- ③味噌、豆腐、やまぶどう
- ④安比塗（漆器工房、安代漆工技術研究センター）

(3) 豊富な観光関連資源（自然体験、スキー、温泉、豊富な宿泊施設など）

- ①十和田八幡平国立公園
- ②ウィンタースポーツの拠点（全国的に名高いスキーリゾート地、ノルディック競技施設）
- ③登山やトレッキング（国内を代表する50kmトレッキングコースなど）
- ④学習施設（市博物館、松尾鉱山資料館、松尾八幡平ビジターセンター、イーハトーブ火山局、森林ふれあい学習館、中和処理施設、地熱発電施設など）
- ⑤直売所（市内9箇所、加工品）、地産レストラン
- ⑥豊富な湯量を誇る多彩な温泉
- ⑦豊富な宿泊施設
- ⑧観光体験（あけびづる細工、草木染め、そば打ちなど）、教育旅行
- ⑨盛岡広域圏内で第2位の観光客入込数（圏域の約2割を占める）

(4) 地域の風土に根差した多様な歴史・文化・伝統芸能の継承

- ①旧鹿角街道（文化庁歴史の道百選）
- ②松尾鉱山露天掘跡地（経済産業省近代化産業遺産）、松尾鉱山資料館
- ③市指定無形民俗文化財（平笠裸参り、浅沢神楽、先祓い、横間虫追い祭りなど）

(5) 先進的な地熱発電や資源・エネルギー循環の取組み

- ①日本最初の商用地熱発電所（松川地熱発電所。昭和41年に運転を開始、平成28年日本機械学会機械遺産登録）
- ②地熱を活かした特産品開発等の取組み
- ③飼料・堆肥による循環型農業
- ④地域素材を活かした地産地消（直売所、学校、宿泊施設など）

(6) 県都盛岡市に隣接する立地条件の良さと持家取得のしやすさ

- ①県都盛岡市に隣接
- ②市内に東北自動車道の3つのインターチェンジ
- ③市内にJR花輪線駅が12駅
- ④盛岡市や滝沢市と比べ持家が取得しやすい（価格の面や広い床面積など）

(7) 多様なワークスタイル、ライフスタイルが確立できる

- ①市内のほぼ全域で高速通信網が利用可能
- ②リゾートマンション、ホテル、ゲストハウス¹³⁾、別荘、シェアハウス¹⁴⁾など多様な住まいの選択肢

13)ゲストハウス；比較的安価な料金で利用出来る宿泊施設で、宿泊客同士が交流できるスペースが存在するのが特徴

14)シェアハウス；自分の部屋とは別に、共同利用できる共有スペースを持った賃貸住宅